

分離派の誕生 — ミュンヘン、ウィーンそしてベルリン

池田祐子（京都国立近代美術館）

I. 「分離派 (Secession/Sezession)」、その名の由来について

- ・古代ローマ時代の民衆離反 (secessio plebis) Vgl. *Ver Sacrum*, Jg. 1, Heft 1, S. 1ff.
- ・アメリカ南北戦争時の南部諸州 (Secession)
- ・ドイツ帝国成立後の 1880 年、国民自由党における党内左派の分離 (Sezession/Sezessionist)
→ 綱領してのルートヴィヒ・ランベルガー著『分離派 (Die Sezession)』(1881 年) の刊行

新たな経済政策の要請／自由主義貿易支持／政治・経済における自由主義

II. 三つの分離派 — その設立の背景と目的

1) ミュンヘン分離派 (Münchener Secession)

設立日：1892 年 4 月 4 日

正式名称：ミュンヘン造形芸術家協会—ミュンヘン分離派 (Verein Bildender Künstler Münchens – Münchener Secession)

設立目的：芸術制作の自由と民主的な作品評価の場 (展覧会とその会場) の確保

主な参加作家：Fritz von Uhde, Wilhelm Trübner, Hans Thoma, Franz von Stuck, Lovis Corinth, Max Liebermann, Peter Behrens, Richard Riemerschmid, Paul Schulze-Naumburg u. a.

参加人数：ミュンヘン芸術家組合 (Münchener Künstlergenossenschaft、会員 1020 名) から「分離」した 96 名

支援者 (パトロン)：Georg Hirth (出版人：『Münchener Neueste Nachricht』紙、雑誌『Jugend』発行)

展覧会建物：パウル・プファン (Paul Pfann) 設計、1893 年 7 月 16 日開館 (但し 5 年間の臨時建物で 1898 年に解体)

「芸術というものは我々の展覧会で見られるべきものであり、比較的過去の傾向であっても最新の傾向であっても、ミュンヘンの名誉と成るような作品の才能ある制作者は、その花を十全に開花させることができるべきである。」(「Memorandum (覚書)」より、『ミュンヘン新報』1892 年 7 月 21 日)

2) ベルリン分離派 (Berliner Secession)

設立日：1898 年 5 月 2 日

正式名称：ベルリン分離派 (Berliner Secession)

設立目的：国家による芸術に対する統制からの解放。より良い展覧会活動ならびに近代的な芸術の在り方についての指針の探求

主な参加作家：Max Liebermann, Walter Leistikow, Lovis Corinth, Max Slevogt, Hugo von Habermann, Ferdinand Hodler, Max Klinger, Edvard Munch, Emil Orlik, u. a.

参加人数：ベルリン芸術家協会 (Verein Berliner Künstler 会員 584 名) から「分離」した 65 名

支援者 (パトロン)：Paul und Bruno Cassirer (出版人・画廊主)

展覧会建物：ハンス・ギースバハ設計、1899年5月19日開館（但し建設地は、当時まだベルリン市に未編入のシャルロッテンブルク地区）

「我々にとっては、芸術に唯一至福の方向性というものがあるわけではなく、一どのような方向性に属するのであれ—正直な感覚が体現されている作品こそが、我々にとって芸術作品なのだ。単なる職業的反復であったり、芸術が乳搾りの牛であるかのような表面的な技巧は、原則として排除される。」（第1回分離派展カタログより）

3) ウィーン分離派 (Wiener Secession)

設立日：1897年4月3日

正式名称：オーストリア造形芸術家協会—ウィーン分離派 (Vereinigung Bildender Künstler Österreichs - Wiener Secession)

設立目的：展覧会事業の刷新を通じての近代的美術館の喚起、新たなオーストリア芸術の創成とその浸透

主な参加作家：Gustav Klimt, Carl Moll, Josef Hoffmann, Koloman Moser, Josef Maria Olbrich, Rudolf von Alt, Josef Engelhart, Alfred Roller, Felician Freiherr von Myrbach, u. a.

参加人数：ウィーン造形芸術家組合 (Genossenschaft Bildender Künstler Wiens、通称キュンストラーハウス Künstlerhaus 会員383名) から「分離」した19名

支援者 (パトロン)：Karl Wittgenstein (実業家・製鉄業)

展覧会建物：Josef Maria Olbrich 設計、1898年11月11日開館 (分離派展示館の中で唯一現存)

「1. オーストリア造形芸術協会は、純粋に芸術的な関心の促進、とりわけ、オーストリアにおける芸術感覚の高揚をその使命とする。2. この使命を達成するためには、次のようなことを行わなければならない。国内外のオーストリア人芸術家を結集し、すぐれた他国の芸術家たちとの活発な交流に努め、市場的な正確にとらわれない展覧会をオーストリアに確立し、外国の展覧会でのオーストリア芸術の普及を図り、自国の創作活動を刺激し、芸術の発展状況についてオーストリアの民衆を啓発するため、他国の最も重要な芸術成果を紹介する。」（機関誌『ヴェル・サクルム』創刊号より）

III. 「分離派」とは？

三つの分離派における共通点：

- ・国際主義
- ・芸術家そして芸術における自由の希求
- ・展覧会活動による「近代 (芸術／的感覚)」のプロモート

三つの分離派における相違点：

- ・人的交流の位相 (重複する正会員のミュンヘン・ベルリン／重複は通信会員のウィーン)
- ・諸芸術間の位相 (応用芸術を含むミュンヘンとウィーン／純粋芸術のみのベルリン)
- ・政治的位相 (反政府的ミュンヘンとベルリン／親政府的ウィーン)

「分離派」とは特定の芸術の傾向を指し示すわけではなく、芸術の新たなプラットフォームを求める運動だと言える。

「分離派という理念に従えば、分離派は成功に安穩とすることはできない。それは静止点ではなく、道程である。(…) それは、来るエネルギーを何度も繰り返し動員することである。」（第26回ベルリン分離派展カタログ (1913年) より）

IV. 「分離派 (Secession)」 「様式 (Stil)」 ?

狭義には、ウィーン分離派の応用芸術に見られる造形上の特性を指す。

← ウィーン分離派のコーポレート戦略による宣伝効果と商業的成功

『ディ・フレッヒェ』は見事な作品だ。最も純粋な分離派様式 (Sezessionsstil) で作られたカラーそしてモノクロの極めて興味深い図案による、ほとんど無尽蔵とも言えるコレクションである。当初は、その誇張した表現を、奇妙だとか見慣れないものと思うかもしれないが、そこには夢中になるほどの新鮮な解釈や、繊細な趣味の色彩感覚、常に新たな喜びを与えてくれる豊かなファンタジーが息づいている。」

(『ディ・フレッヒェ』 (1910/11 年) のカバー裏に掲載された『Jahrbuch für den Zeichnen- und Kunst-Unterricht』誌の書評)

主要参考文献

- Ludwig Bamberg, *Die Sezession*, Nach dem Buch von 1881 in der Ausgabe von 1897, neu herausgegeben von Hansjörg Walther, Libera Media, Frankfurt am Main, 2016.
- Jochen Meister (Hg.), *Münchener Secession. Geschichte und Gegenwart*, Prestel, München, 2007.
- Michael Buhrs (Hg.), *Die Münchener Secession 1892-1914*, Edition Minerva, Wolfratshausen, 2008.
- Werner, Doede, *Die Berliner Secession, Berlin als Zentrum der deutschen Kunst von der Jahrhundertswende bis zum Ersten Weltkrieg*, Propyläem, Frankfurt am Main, 1977.
- Tobias Hoffmann (Hg.), *Zeitwende, Von der Berliner Secession zur Novembergruppe 1898 bis 1919*, Ausst. Kat., Bröhan Museum, Berlin, Hirmer Verlag, München, 2015.
- 尾関幸編『西洋近代の都市と芸術 5 ベルリン—砂上のメトロポール』竹林舎、2015 年
- *SECESSION, Die Wiener Secession vom Kunsttempel zum Ausstellungshaus*, Hatje, Ostfildern-Ruit, 1997.
- *Wiener Secession 1898-1998, Das Jahrhundert der künstlerischen Freiheit*, Prestel, München, 1998.
- Oskar Pausch, *Gründung und Baugeschichte der Wiener Secession mit Erstedition des Protokollbuchs von Alfred Roller*, Österreichischer Kunst- und Kulturverlag, Wien, 2006.
- Victoria Charles and Klaus H. Carl, *The Viennese Secession*, Parkstone, New York, 2011.
- 池田祐子編『西洋近代の都市と芸術 4 ウィーン—総合芸術に宿る夢』竹林舎、2016 年